

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

工夫している点としては、Teamsを用いて、適宜必要な資料をアップするとともに、学生間で意見の交換をすることで、新たな視点を得られるように工夫をした。シラバスの目標について明確化し、いまやっていることとどのように関連があるかについて説明する必要があると考えた

誰もが質問や意見を述べやすいようにリアクションペーパーを工夫し、またそれらには必ず回答している。ただし、グループディスカッションの時間は少ないので、今後に検討したい。

回答率が低いものに対しては、何とも言えない。ただ、一年のものは手応えがあり、いいのではないかな。動画と組み合わせる今のスタイルは、つづけていいと思う。

前半は教科書内容を学ぶ形式で進めた。また後半は、学生達による発表形式で進めた。1年生にも関わらず能動的かつ前向きに授業に取り組む姿が見られた。アンケート結果を受けて、学生の多くが主体的に学べた姿が分かったが、さらに学生に授業を深める観点や視点を投げかけたり、教材研究の意義を考える機会を今後増やしていきたい。

【独自の工夫点】最近の教育ニュースを取り上げつつ、学校現場の実態をシェアし議論を促すことで自分ごとにしながらか講義に参加できるように努めた点、直近の現場の視点という意味では、誰にも負けないように努めている。講義内容のバリエーションという意味でも好評をいただいたようでありがたい。

【改善点】ある人にとっては「簡単」、ある人にとっては「難しい」という状況の改善が最後までできなかった印象である。概ね好評だったようだが、苦手としている子を見捨てないように頑張りたい。講義内容の良し悪しが「難易度」で語られがちな印象があって、それは良くないと感じている。内容の意図の補足もしっかりしていたつもりではあるが、より気をつけたい。また「学年が上がるにつれアンケートに答えない」という文化が顕著になっているので、回答数を増やすところから粘り強く頑張りたい。

今期は、5月の連休前まで教室定員の制限があったことから、オンラインと対面授業を学期末まで併用した。授業方法について独自に工夫している点はない。アンケート結果では、「授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った。」学生があまり多くはなかったことが課題であると感じた。改善点としては、参考文献の紹介をもっとする必要があったと感じた。

オンデマンドと対面を組み合わせたハイブリッドを行っています。オンデマンドでは講義と課題を課し、対面ではその課題に基づくディスカッションや模擬授業を中心に行っています。一方、課題をオンデマンドで出すためか、課題の意図があいまいであると何名かに厳しく指摘されているので、(わからないものについては質問してくださいとは伝えているのですが、質問はなく...)その点について、課題の意図を丁寧に講義に盛り込む等改善をしたいと思っています。最後になりますが、非常に少ない回答率の講義もあり(授業中に指示はしているのですが...)その点についても反省しています。

・今年度は、授業に出席していないのに提出するということがないように、意見記述をオンライン提出ではなく、授業の最後に手書きで提出させ、それに対するコメントを次の授業で行うようにしました。  
・今年度は、毎回の授業で休憩を取り入れるようにしました。学生の集中力を持続させること、授業全体のリズム感を整えることが目的です。休憩は、昨年度、学生から意見記述内を通して提案があったものです。昨年度、試行的に取り入れたところ、学生の授業への集中力が上がったので、今年度は本格的に取り入れました。

・説明する時間、作業する時間、話し合いをする時間、休憩する時間の時間・順番・組み合わせを工夫することで、授業にリズム感を持たせ、学生の集中力が持続できるように心がけました。

・今年度も、どんなことがあっても、授業を延長しないように努めました。

・授業の方法については、これまで同様の工夫をしました。

・アンケートに関しては、特に改善点を指摘する意見は見られなかったもので、これまで通りの授業を続けていこうと考えています。しかし、説明が長くなると、集中力が続かなくなる傾向もさらに強くなっていますので、説明を短くする工夫、また、説明する時間、作業する時間、話し合いをする時間、休憩する時間の時間・順番・組み合わせを工夫し、よりリズム感のある授業を目指したいと考えています。

大学の授業として高度な授業を心がけ、本来の教育のあり方を学んでほしいと考えている。特に英語に関してはヒアリングにおけるTOEICの大幅な点数アップを目指している。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

提出されたレポート課題を全体でレビューする回を設けることで、何が理解できて、何が理解できていなかったかを明確にしなが授業を進めるようにしている。アンケートの設問「教員から意見が求められたり、グループ・ディスカッションを行ったりするなど、質疑応答の機会があった」に対する回答が芳しくなく、質疑応答の時間をもう少し増やす必要があると考えられる。

学生からの回答に対して、肯定的に回答することにより、動機付けを低下させないようにしている。

授業の開始時にこの講義で身に付けた知識や技能の活用例などを示すように努めたつもりである。また、資料の配布や提示だけでなく、グループワークにおいてもTeamsを積極的に活用するようにした。アンケート結果からは受講者にも概ね理解を得られたように思われる。今後も積極的に活用する方法を工夫していくつもりである。タッチタイピングができない学生が多いことに気づいたため、できるだけスマートフォンでの代替が難しいような資料提示の工夫をし、パソコンやタブレット等の利活用スキルを向上させるように努めていきたい。

演習の時間を取り、その際には見回るなどをして学生の理解度を知る努力をした点と、講義内容が難しいため、少し丁寧に語ることに努めた点が工夫した点である。自由記述欄について、昨年に比べ『先生も予習してきてくださるし、質問に行っても自分で考えながら分かりやすく教えてくださった。テストの範囲を指示してくださったり、予想問題をくれたので自分で勉強しやすかった。個人的に授業方法が一番好きだったので、楽しく勉強できた。』『スマホ禁止だったり私語禁止のルールのおかげで集中できたし、他の授業と違って静かだったのでいい環境だったと思います。』など、比較的好意的な記述が増えてよかった。(実際には私語禁止など一度も言ったことはないのだが。。)その中で、気になる記述があった:『遅刻したかの基準は授業始まった瞬間ではなく、1限なら9時10分と授業時間に定めたほうが良いと思いました。』遅刻の基準を厳しくしろ、という意味であろうか。遅刻の基準を少しゆるくしていたのだが、真面目な学生にとっては(ほかの不真面目な学生との差別化のために)講義を少し厳しめにしてほしいという気持ちがあるのかもしれない。様々な学生がいて全員が納得するようには難しいが、少しでも耳を傾けているいろいろな意見を聞き入れていきたい。

実施前に十分時間をとり心身の状態のカウンセリング実施したこと。

授業方法はスライドと板書、スライドへの書き込みの提示を組み合わせで行っている。授業後には質問を募り、全員へのフィードバックを心がけている。質問が億劫な学生のため、質問の中で重要なものは授業内で取り上げてできるだけ全体に共有できるようにしている。独自に工夫しているのは、スライドで簡潔に説明できる箇所はスライドショーで行い、学生に考えてほしい箇所はペースを合わせるためにスライドへの書き込み式にすることである。アンケート結果をみるに、知識・技能の教授はできているものの、学生の自主的な学習へは繋がっていないようであった。この点を改善点として捉え、学生の自主的な学習へ繋がれるような工夫(働きかけと自主学習へつなげる本や行動の提示)を行っていきたい。

意欲が湧くように工夫している。

専攻科目の授業においては、中学校の技術、高校理科の既習状況を考慮して、一部復習を行っている。

理系の学生には、高校化学との関連性を示して、それとは異なる新しい視点を解説した。また、レポートの考察のポイントを示した。文系の学生には難しい内容であるので、親しみやすいピックスを紹介したり、テーマに対して自分の意見を求めるような出席レポートを書かせて、講義への積極的な参加を促した。イメージやエッセンスを伝えられるよう努めたい。

これまでの指摘を受けて、今年度は小テスト内に質問欄を設けた。学年による差はあるが、小テストと分けて設置するよりも、質問・コメントが多くなった印象があるので、今後も続けて様子を見ていきたい。課題の指示等は、オンデマンドでは気づかないこともあるようなので、今後工夫が必要だと感じた。

必要に応じて小学校授業の動画を見せるようにし、子どもの様子や授業の実態など想像しやすいようにしている。ロイロノートの使い方などを講義で実際に使用しながら伝えている。話し合う活動が少なかったため、後期以降、増やしていきたい。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

授業映像による具体的な子どもたちの学習状況から、教材理解に至る教師の教材解釈、教材化したものを授業の中で教材にしていく(教材化を教材にする)プロセスをできるだけ可視化しようとしている。アンケート結果を受けて、本授業の専門的知識を、他の分野や事象とも関連づけての理解には課題が残っている。本授業内容から他教科・領域等へのつながりと、本授業方法から授業構成や子ども理解等とのつながりについて、具体的な事例を提供していきたい。

資料として渡す内容は少しだけ高度に、授業中で話す内容は受講者のレベルに合わせてやや平易にするように留意している。

全体的に満足いく結果となっているようで安堵しました。ほんのごく一部、聞いた話を切り取ってそれについての見解をここに書いてしまっている人を見受けられたので、この場合は授業改善のためのその手法について話し合うべき場であることを今後、誤解のないようきちんと伝えられたらと考えています。

概ね学生からは高い評価を得られた。ただし、講義形式の授業においてまなびネット上のコメントペーパーの設定が遅れがちであったのは反省点であり、改善したい。

専攻科目については、回答数が少なかったが、アンケートの結果から、ほぼ目標は達成されたかと思う。教科内容科目に関しては、かなり色々と、どうすれば学生がしっかりと効率よく学べるかを考え、コロナが途中再燃したこともあり、シラバスと変わってオンデマンド中心になってしまったが、小学校教員になった時に、子供たちへの指導に役立つように考えた授業を行ったつもりではあるが、問9の答えから何人かの学生には、その意図が伝わらなかったようである。まるで適当にやっていると感じられたのは、とても残念で、オンデマンドと言えども、ひとりひとりの提出したものに対しては、通常に授業の何倍もの時間を割いて、各々に指導したつもりである。来年度も同じ授業があるので、上記の点を鑑みて、どう改善すべきかを考える必要があると感じた。

演習授業は少人数ならではのまなびあいを大切にしている。机を円状にしての事例検討や一人ひとり発表を行ったり、コロナ禍で体験できなかった和気あいあいとした雰囲気大切にしている。

小学校の教員になったことを想定し、基本的な事柄を実技を交えて授業を行っている。また、教員としての授業経営力向上のために大切な視点も学生に伝えるようにしている。実技を重視すると学生の授業満足度や出席率は高まっているが、時間も必要なため、レポート等について十分扱えなかった点を改善するために、後期は講義とレポート内容のリンクを明らかにして授業を行う。

できるだけ、学生をつぶやきを講義中に拾い上げることに注意している。が、まだまだ足りないらしいことが、アンケートから伺えた。よりつぶやきに注意を払うことを心がけたい。

学生が指導者側の立場になることを見越して、説明するために必要な知識が身につくよう、筆の動かし方などを説明及び実践させた。また、PCなどを活用し、動きの細部を確認させた。どうしても技能に偏るので汎用的な知恵を授けるのは難しいと感じた。

授業では、一方的な講義にならないよう、学生の側での調査の実践やそのプレゼンなどを取り入れているが、アンケート結果を見ると授業内容との関連をうまく見出せず、また独自に発展させることが難しかったように思われる。授業では、実践と授業内容との関連を丁寧に説明して、発展的に学習する場合のやり方や参考書などを紹介するようにしたい。

学生目線での理解のしやすさを保ちながら、専門的で実用的な内容を損なわないよう工夫するとともに、スライド資料についても、自宅で復習できるよう、可能な限り後から見返して講義を理解できるように書き込むように工夫しています。今回のアンケートの結果においても、おおむね専門性の高い内容も伝わり、かつ学生の理解が深まっているように感じたため、上記の工夫は効果的であったと考えております。今後の改善点として、理解だけでなく、学生が深く考えるような問題提起なども含めるとともに、若干点数の低かったグループワークの機会なども臨機応変に増やしていこうと考えております。



## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

大学生は卒業後に教員として就職した際に、毎日の授業をどのようにこなしていくか、ということに大きな課題を感じ、そのため、すぐに使える具体的な教材や活動例を紹介してもらうことを期待しているように、今回の授業やアンケート結果を通して感じた。一方で、インターネットを使えば、そのような教材はいくらでも出てくる。そのため、私の授業では、就職後に教師の仕事の不確実性(佐藤, 1994)に対応できるように、先行研究でどのようなことが明らかになっているのか、そして、先行研究の知見が限定的であったり、絶対的な結果でなかったりすること、授業を通して、理解してもらえるように工夫している。しかし、アンケート結果から、授業の意図が伝わっていないと思われる回答が見られた。今後は、授業を通して伝えたいことを明確にしたいと思う。

板書をホワイトボードに投影したテキストへの書き込みに変えるなど、いくつか教材提示の工夫をしたが、設問2の回答の状況を踏まえると、それなりの効果を感じられた。またしっかりとした予習の必要な演習の授業について、設問3の状況から、ちゃんと準備をしていたことも確認できた。一方で、授業の意義や内容に関する関心などはなお十分伝えられていないところがあると(特に共通科目について)反省した。また、自由記述では、教材の提示などについて具体的な感想や改善点の指摘があり、たいへん参考になった。

一般的な講義科目であっても、学生にディスカッションの機会を多く設定するなど、相互的な授業が展開できるように工夫した。今後もこれを継続できるようにしていきたい。

講義ではコメントシートを活用し、その場でのディスカッションも数回行ったが、今後はディスカッションの回数をさらに増やしていきたい。

グループで取り組む課題を出して、コミュニケーションを取りながら課題解決に向かえるようにし、主体的な学びを学生自身が体験できるような授業を心掛けている。アンケートを受けて、授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を促すよう指導したい。

指導の実践問題の理解を助けるために映像資料を多く用いるようにしてはいるが、分かりやすいとは言えない。適切なテーマを設定したグループディスカッションの時間を十分に用意し、主体的な学習意欲を高めることが必要である。

授業の最後に今回の授業のポイントを「振り返り」として毎回提示した。ただし、グループ・ディスカッションや質疑応答の機会については、少ないと感じる学生もいるので、学生同士のディスカッションの機会を増やしたい。

- ・化合物の構造をわかりやすくするため授業で分子模型を用いる様になっている。
- ・年々学生の理解度の低下が見られるので、基本的な事項を繰り返し振り返る様になっている。
- ・まなびネットで授業の復習ができるような工夫を一部の授業で始めてみた。
- ・同じ授業を受講しているのに、話し合いの機会などの大小の捉え方が異なるようなので、伝える工夫がさらに必要である。

毎回この評価書を書いて思うことだが、授業アンケートに真摯に答えてくれる学生のためにも、しっかり反省し、これを今後に活かしていかなければと考える。それぞれ授業によって多少対応が異なるが、全体としては以下のようなものである。

学生に興味・関心をもってもらうため、できるだけ分かり易く、基礎基本を重視している。授業の特性を鑑み、理論と実技のバランスを常に考えている。また、苦手意識を克服できるよう、個人個人のレベルや達成状況の把握に努め、そして、それに合った対応を心がけているつもりである。アンケート結果は調査参加人数が少ないため、参考にしにくいところもあるが、以下の点を改善点として更に努力していく所存である。

- ・グループディスカッションも多く取り入れていきたい。
- ・難しいが、他の分野や事象との関連づけを、さまざま考えたい。
- ・課題探求力を高めるべく、自ら主体的に調べる方法を模索したい。
- ・ICTの効果的利用を更に考えていきたい。
- ・カリキュラム上、学生の思うように選択履修ができていないところがある。学生の負担にならないよう、演習発表等に配慮する必要があると思う。

小テストの問題用紙の回収については、最初の授業で説明しておくこと。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

分かりやすさを最優先している。また、教員となっていていつか授業で教える際に、その背後にあることをイメージしてもらうようにしている。アンケート結果は、良いコメントを書いているが、数値自体については提出も少ないため判断は差し控えたい。

あえて「独自の工夫」と言えるようなことはやっていない。

さらに問題意識をもって講義に臨んでもらえるように、学生に自分の問題と捉えるような発問や教材の工夫をしていきたい。この講義の内容価値をしっかりと伝えていきたい。

職業指導の講義ではあるが、その広義であるキャリア教育とともに進路指導についても学修内容とした。授業では既習している基礎理論をベースに、中学校現場で実際に行われている職業指導について、映像資料を用いて紹介したり、指導力向上のためのグループワークやディスカッションなどを実施した。受講生が受動的に学ぶのではなく、将来の指導者として主体的な態度の育成を心がけた。

受講者の皆さんがより深く学ぶことができるよう、授業改善を進めていきたいと思います。

非常勤講師として主にレポート評価を担当しています。「まなびネット」フィードバックで、パソコンの操作方法など、できるだけ具体的な記述を心掛けています。

理論と実践の融合。理論は講義と講義資料にて解説、実践は学校の実践VTRにて紹介している。アンケート自由記述回答のうち「肯定的回答」を除外した結果次の2点が残ри、それぞれ以下の通り対応したい。

①詰め込み教育のように感じたので、もう少しアクティブラーニングな活動があると良いと思いました。  
【対応】もともと「詰め込む」講義なので、教師になったらアクティブに活用してもらおう。その趣旨(話合いに浪費する時間を体育の知識を蓄積する時間にする。その方が教師になったとき有益)をガイダンスで伝える。

②学習指導案を先生が見なおしたのを知りたい。  
【対応】見直してほしいけれども「もってこい」と講義で伝える。

### 授業評価システムについて

・授業評価の提出率が低い(34%)のが気になった。授業評価の意義を伝える必要がある。  
・2名で担当しているので、どれだけ自身が目標を達成したのかわかりにくい。自由回答で、「よかった点・わるかった点」の回答をお願いする必要がある。

### 設問内容について

・未回答者を除く2-3割程度の学生が「どちらともいえない」あるいは「あまりなかった」を選択している設問が一部みられる。今回の演習を通じて「今後の社会生活や職業生活において重要と考えられる汎用的な能力を高めること」はできているはずなので、そこを含む演習の意義を説明する必要がある。

教育方法、教育課程に関わる科目ではあるが、理論的なものの考え方を獲得することが重要なので、その点はしっかりと組み込むようにしている。各回の内容に即して実践事例を示すことで、理論と実践を繋ぐことが重要であることを理解してもらおうと試みている。コメントの中に「授業で何が重要であるかわからなかったので授業感想が書きにくかった」という意見があったが、授業導入部で必ず本時に考えてほしいことを提示しており、また感想も漠然と課すのではなく、何について意見を述べてほしいか明示している。ただし、授業感想へのフィードバックを毎回できなかったことは反省点であり、これを充実させることで授業感想を書くことの意義を理解してもらえるのではないかと考えている。

今後も受講者のニーズにあった、役立つ授業を行うよう努めていきたいと考えます。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

### 工夫

授業資料(スライド)を、スタンドアローン(基本的に口頭説明が不要)なものにする。必要に応じて、学生が授業中に相談・議論できる時間をとる。関連する発展的・派生的内容などについて、意欲ある学生が授業後に自分で学習できるような内容・資料を提案する。

### 改善点

授業後の課題の一部をより具体的なものにする。計算問題など答えがある場合には、あるいは一定の方向性が想定される場合には、それらを示す資料を配布するあるいは授業中に示す。

具体的な授業場面を取り上げて教員としてどのように対応すべきかを考えたり、グループで検討するなど、学生にとって取り組みやすい課題を設定するようにした。

自分自身の言葉でどう伝えるかについて、ポイントをあげながら考えてもらうこととした。今年も感染症対策のために、グループごとの検討を行えなかったのが残念である。次年度は状況を見て、グループディスカッションの時間を増やしたい。

授業に関しては、授業内だけに留まらず、授業時間外でも受講生に関連する内容や情報をできるだけ分かり易く伝えるように心掛けています。アンケート結果からはその効果があったように思われます。アンケートにあった「授業のなかで提示された専門的知識を、体系的に、また他の分野や事象とも関連づけながら理解できた。」という部分は、全体の授業時間から言ってなかなか難しいところですが、今後は少しでもそのような点に留意して授業を進めたいと思います。

できる限り、現実の教育現場の状況を反映させた授業になるよう努力している。そのためには、ゲストスピーカーなどによる生の声を聴いてもらうのがよいと考えているが、その点が受講者につたわっているのはうれしい。一方で、授業改善に向けてアンケートの回収率を高める努力が必要だと思った。

授業(演習)で取り上げるトピックやテキストが、学生の現在とこれからにとって、広く社会生活全体に関わるものかを絶えず考え提示するように心がけている。ただ、いつもたいてい、そうなのだが、アンケートの設問7(今後の社会的な生活や職業生活において重要と考えられる汎用的な能力を高められたか)に肯定的に答える声は少ない。この設問に対する肯定的回答を高めるためには、授業の題材、投げかける問い、参加者同士、参加者と授業者との間での応答、など、今後、どの部分にとくに注力していったらよいのか、正直なところ、現状では考えが及ばない。今後も地道に、題材(テーマ、トピック)、テキストの選定、投げかける問い、参加者が考え発表する回答への参加者を含めたクラス内での応答など、一つ一つの「人文系科目」としての授業内容を、現代を生きる人間として必要だったと実感してもらえよう、構築していくしかないと思う。

授業については、学生が思考しディスカッションを多く入れることにより、自身の考えを深めるような工夫をしている。実技については、教えるというよりも引き出すことを重点的に、指導法を身につけるような授業を心掛けている。アンケート結果を受けて、授業時間以外で考えることが少ないように感じたため、他の授業との関連もさせながらより学びを深めていけるような工夫が必要であると感じた。

項目の中で、概ね「そう思う」が多かったが、参考文献等を自ら調査するという項目のみ「あまりそう思わない」が見受けられたので、今後自ら調べたりする機会をつくりたいと考えている。

毎時間授業ワークシートを作成し、パワーポイントを使いながらわかりやすい授業を目指して授業を進めた。時々意見聞きながら授業を進めたが、どちらかというと説明が中心の授業になってしまった。学生との意見のキャッチボールができるように授業を改善していきたい。毎回、授業の終わりごろ、新聞記事や資料等の具体的な事例をもとにレポートを記述してもらうようにしたが、毎回時間が不足して十分な時間をとることができなかった。それでもしっかりと記述できる学生もおり、素晴らしいと感心させられたが、時間不足で十分な記述ができずに提出せざるをえなかった学生が多かったので反省している。資料の内容をしっかりと考えて、しっかりと記述できる時間を設定することが必要であるので、改善したい。自分にとっては、大学において初めての授業だったので、授業を受講してくれている学生の実態がよくわからずに戸惑った点が多かった。そんな中でも一生懸命に話を聴いてくれたり、レポートを提出してくれたりした学生が多く、さすがに愛知教育大学の学生だと感心した場面が多かった。



## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

基礎論の授業を担当しているので、前半は小テストなどを通じて基礎知識の修得を目指し、後半はグループワークなどで主体的・対話的な深い学びを体験してほしいと願っている。アンケート結果はおおむね良好であった。

学生同士が対話できる関係になることができるような場になるように、グループワークに入る時に、アイスブレイクや緩やかなグラウンドルールを設定した。

学生参加型にするために、リーディング演習では学生同士で内容を確認しあい、リスニング演習では内容を話し合い、そのうえで説明を加え、理解が深まるようにしています。学生自身で予習復習がきちんとできていれば、授業内でしっかり演習し理解できると思いますが、これからも学生全体に行き渡るようにはっきりと説明してゆきたいと思います。

一部の授業で欠席者へのフォローに力を入れた結果、授業への満足度が昨年よりも上がったように思う。今後も継続していきたい。授業によっては、欠席者へのフォローが難しいものもあり、今後の課題としたい。

教育内容や教育法の授業では、模擬授業のワンポイント動画を撮影させ提出させたが、話し合い協議ができていなかったので、入れていきたい。

1クラスに、130名以上の受講生がいる授業については、工夫・改善を行っていますが、教室や設備が限られた中で、十分な環境を提供できず、大変申し訳なく思います。授業が理解しやすいように、資料の提示方法やICT機器の有効活用などにも気を配り、今後も授業環境の改善を継続的に行っていきます。

毎時間、学生に「本時のふり返し」を書く時間を設け、提出してもらっている。(提出した者が出席としている)私はそれを丁寧に読んで朱書きし、次の授業で返却している。ふり返しを読むと、自分の伝えたかったことと学生の受け取り方とにずれがあることに気づけるので、次時で修正ができる。文章による学生との交流ができることで、授業も軌道修正ができていと感じている。

できるだけ授業題目に見合った内容になるように教材を選んでいる。が、その一方で、英語の技能の向上を目指すことを主目的としていることから、汎用的な能力を高めるという要望に応えることは難しいと考える。少なくとも受講して英語力が向上したという実感を持ってもらえれば幸いである。前期の授業であることから、多くの学生からTOEICに関する内容も扱って欲しいという要望があった。来年度からはこの点にも配慮した授業を行いたい。

日常生活や、実際の事例、また漫画やアニメなどを交えながら、興味を持ちながら理解出来やすいように工夫をした。他の領域との関連が不十分だったようで、どう他領域に生かすのかについて学べるような事例を挙げていきたい。

授業内容は、講義と演習、グループ討議や全体での発表など、様々な形態を組み合わせつつ授業を行っており、全体的にはその成果は出ていると思われる。アンケート結果に基づき、さらに学生自身が意欲的に取り組み、授業目標を達成できたと感じられるように、最後の授業での目標達成の振り返りを丁寧に行うようにしたい。

アプリケーションの使用方法について、もう少し詳しく説明してほしいという意見があり、振り返るとその通りだったかもしれないと感じている。つい端折って要点だけで進めてしまっていたが、学生は初めて使うものだということを念頭において、改めて方法を考えたい。

パワーポイントや資料など、視覚的に理解するよう準備しているが、基本的には講師の私がずっと話しているスタイルであるため、自ら調べたりするところまで学生を導けていないのは課題である。

学生同士の話し合いを充実させています。また、一方的に知識を与えるのではなく、自分の考えを持たせてから知識を確認する方法(反転授業)を取り入れています。アンケート結果を踏まえ、グループワークを増やし、学生同士で考える機会を充実させたいと思います。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

学生の集中力を切らさないよう、適宜、個人・グループワークを取り入れている。

・学生の毎時間の課題については翌週回の講義でよいノートを紹介し、広めることで、学びの質が高まるようにしている。  
・講義の前半期は理論的なことを学び、後半期には学んだことをもとにして学生自らアウトプットできるようにして、理論と実践を結びつけることができるようにしている。  
・事前に講義資料を送付することで、予復習に生かすことを推奨している。  
・1時間の授業内にできる限りペアトーク・グループワークを取り入れて協働的に学ぶことができるようにしている。

履修者の予習・復習が積極的に成されるように自学可能な教科書と資料を準備し、授業毎の小テスト・課題を課している。概ね積極的な学習態度であるが、更なる進化のため、予習が成されるよう、アナウンス並びに誘導的な授業を実施したい。

### ◎工夫

- ・ 授業場面の具体的な設定による授業方法の体験
- ・ 繰り返しによる基礎的な内容の徹底習得
- ・ 他学生との意見交流場面の設定
- ・ つまづきの早期発見によるシラバス修正

### ◎改善点

- ・ 他分野との関連を重視した内容を取り入れる
- ・ 関連する資料や事項・事象を、学生自身に積極的に調べさせる授業内容を考える。

実際の小中学校における指導を学生がイメージしやすいように体験的に講義を進めることと具体的な資料を提示している。アンケート結果からはそれらが学生のニーズに合っていたことが伝わってくる。今後もよりよい資料を提供できるようにしたい。

一方的な講義にならないように演習問題・小テストを取り入れて、学生同士の学び合いを促した。演習科目と講義科目の進度の差による学びづらさの意見があったので、演習問題の内容を精査していきたいと考えている。

現場に生きる資料の提供と学生相互の話し合い活動の充実に努めました。本時の講義のめあてや、学生さんに身に付けていただきたい力を明確にする必要があると思いました。

独自の工夫: 提出していただいた、発表資料やレポートに朱書きで添削を行い、受講者全体に共有している点。

改善点: 予習・復習などの自主学習・小テスト・レポート等の課題についての指示が授業内あるいはシラバスで明確に通じていなかった点(アンケート回答にある程度そう思う、と高い割合であったので。)

授業における知識や技能以外に、現場教師OBとして、教師のやりがいや喜びを伝えたいという思いで授業を展開した。今後はさらにそのために、もっと学生諸君との対話を大事にした授業展開を考えていきたい。

講義単位の授業であっても、内容に合わせた問いを用意し、受講者同士で検討しあいながら講義の理解を深める機会を設定する方法を心掛けている。それにより、授業の進みは遅くなるが、「講義でポイントとなっているのは何か」「自分がどこまで理解できていて、何がわかっていないか」について認識できている様子がうかがえる。演習単位の授業は、担当発表の前段階で、何を求める授業かが確実に伝わるよう、目標を明確にし、さらに個別に話し、指導する機会をなるべく持つように心がけている。アンケート結果から、講義形式の授業については、授業内のコミュニケーションが確保されていたことはプラスに捉えられていたが、そうしてもなお難しさを感じる受講者が一定数いることがわかった。これまで難易度を下げたり、内容を減らしたりすることは避けてきたが、ある程度は考えなければならないのかもしれない。演習形式の授業については、受講者にも能動的な参加姿勢がうかがえ、それぞれの達成感も得られたようである。今回の方針の継続で、まずは良いものと判断される。

他者との交流活動を入れることで多様な意見に触れ、多様性に気が付くような授業を行った。また、今後は各評価や授業内のルールは事前にはっきりと文書で提示し、不平感を感じる学生がいないようにしたい。



## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

まなびネットを活用した動画の配信と、対面授業を組み合わせることで多様な学科の学生さんたちが交流できるような授業を工夫した。その点については一定の評価も得られたので、継続したい。また、講義動画が長すぎるといった意見や動画内で一方向にならないようトークセッションの形式で作成してみたが、トークセッション形式でなくて良いといった意見や、短い動画にして欲しいといった意見も複数あったため、講義動画のあり方については検討していきたい。また、グループワークに取り組んでもらう形式で実施した講義では、その形式は一定の学習効果を感じてもらっているものの、3時間の活動時間では取り組みきれなかったという意見も見られた。講義内に作業時間を増やしすぎることによって、他の講義内容を減らさざるを得なくなるため、授業外の活動負担を減らしつつ教育効果を挙げられる進め方を検討していきたい。

学生たちが主体的に学べるような授業を設計しています。

学校現場で取り組まれている図画工作科・美術科の授業づくりを通して、より実践的な授業内容を扱っている。今後は、学生間の質疑応答の時間を設けたり、授業やシラバスで内容を周知したりしていく。

要所でグループワークを取り入れることにより、受講者が自身の考えを表現、共有し議論を深められるように設計を行っている。アンケートでは、質疑応答の時間がやや少ないとの示唆がフィードバックとして感じられた。よってワークもしくはその後の時間に受講者の疑問や相談に答えるような時間を設けたい。また、オフィスアワーの時間と使い方をより明確に伝えるようにしたい。

総じて「シラバスに掲げられた到達目標に達した」という項目で高評価であったので、授業自体の目標は達せられたのかと思う。しかし、「課題や小テスト」についての項目で、低評価であったことは反省点として挙げられる。今後は、授業の進行に応じ、適切な課題・小テストの機会を設けるなどして、要望に応えられたらと考えている。

全て対面で開講したが、まなびネットで事前に授業内容を配信することで、学生たちが予習や復習に活用したり、欠席した場合にも対応できるようにした。授業中にはグループ学習を取り入れたり、作品を掲示することで相互に見ることができるようにした。

学生の関心事や主体性を引き出すことをねらいとしたが、明確な指示や条件の提示を強く希望する履修者も一部いるため、柔軟に対応したい。

履修者のチームづくりを十分に行った上で、実習研修と支援の活動を展開するよう内容を展開している。また、履修者同士の気づきをコミュニケーションを通じて共有する時間を設けて、活動の理解を深めている。

問いかけをしたり、実践動画をはさむなど実体験としてとらえてもらえるよう工夫したが、反応はそうでもなく、結果を受けて反省したい。

必修科目に関する工夫点は以下のとおりです。

- (1)各講義の学習目標を明記しつつ、講義内容の理解度を確認できる質問を掲載した「理解度チェック表」を配布している。
- (2)講義内容の復習を促すために、上記の理解度チェック表の質問に基づく「復習テスト」を授業の開始時に実施している。

学生がより興味を持つような授業資料を提示する努力をしたい。

学生との質疑応答や主体的に進める学習方法を積極的に取り入れている

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

半々に対面と遠隔授業だったので、遠隔では一言コメントを返すようにしました。時間的に丁寧なコメントにはなっていないかもしれないです。今後は対面になるので、遠隔での手法も取り入れてカイゼンしていきたい。

この授業では、その性格上、学ぶべき項目は非常に多岐にわたり、膨大なものであります。工夫を行った点として、内容を理解しやすくするため、スライドを視覚的なものにしたり、動画を利用したりしていました。また講義時に内容を理解しやすいように、後に復習がしやすいように、まなびネットでスライドを提示していました。また内容においては、その講義内容が心理職にどのようにかかわってくるのかをイメージしやすいように心がけていました。アンケート結果からは、授業中に学生に意見を求めたり、ディスカッションをしたりするような時間をあまりとれなかった点が課題と理解しました。次年度からの講義では、学生が自ら考える時間を設定していくようにしたいと考えます。

授業において、学生同士のコミュニケーションを通して多様な考えに気づいたり、深く学修を深める意義を感じたりすることができるように、グループワークやディスカッションを取り入れるようにしている。アンケートの回答率が低かったが、問4に「あった」と回答している割合が多いことにも手ごたえがあったと思われる。今後も授業内容を工夫し、学生が主体的に学修に取り組むことができるようにしていきたいと考える。

授業の学生評価を確認しました。多くの授業でそれほど悪くない評価をいただいたと思います。今後も引き続き学生の興味を引き出せるような工夫をしていきたいと思ます。

・講義科目においては、適宜学生同士で学びあえる場を設けたことが、学習意欲につながったとの指摘があったので、今後も継続したい。  
・実技科目では、個別の課題が各自にあるため、個別指導をそれぞれに行ったことが、学生の課題解決につながったとの指摘があったため、今後も継続したい。

小・中学校の学校現場に即した内容や方法となるようにしている。アンケート結果を受けて、課題を見つけて改善をしていきます。

初年次演習では、参加者の活発な議論参加を促すよう、問いかけやディベートの誘導に努めている。アンケート結果では、おおむね良好な結果であったが、「強くそう思う」がやや少なく感じた。これを改善するため、「やらされ」とは感じないような課題の設定、興味の喚起が必要であると考え。なるべくアクチュアルな課題にかかわるような課題図書の設定、発表の設定を行いたい。専攻科目Ⅰについても概ね良好な結果を得られた。問いかけなどを増やす工夫をしたい。専攻科目Ⅱはそもそも回答率が低かった。もう少し授業の中で時間をとりたいと考える。

アクティブラーニングでもあるグループワークが好評だったので、今後も講義内で取り入れていきたい。改善点は特に意見はなかったが、回答率が低かったので、アンケート回答を促したい。

毎回、個別に課題を提出してもらい、それを添削し個別にフィードバックしている。できるだけ相互交流、相互評価する機会を設けている。アンケートは未回答者が多く、実態がはっきりしないのは残念である。一人だけかなり否定的な人がいたが、それに気づくことができたらよかったと思う。

配布資料以外に、詳しい資料はまなびネットで確認できるようにするなど予習・復習ができる機会を設けるようにした。また、支援が必要な場合には、個別に+αの資料を作成するなど、個々に合わせられるようにできる範囲で実施した。オムニバスでの授業が多いため、自分の担当分がどのように評価されているかが明確ではないが、アンケートでは自分で自ら学ぶ姿勢があまり見られなかった可能性がある。今後は、探究心により積極的な学びを引き出せるようなきっかけづくりや仕掛けづくりにも取り組むなどの改善を行いたい。また、今回の授業アンケートの回答をするよう、うまく促せていなかったと考えるので、この点もぜひ協力してもらえよう、より働きかけていきたい。

「初年次演習」では学生の発表やグループディスカッションを中心に授業を展開し、学生にもその趣旨が概ね理解されていた。一方、講義科目では学生に意見を求めたりグループディスカッションを行うことが難しく、工夫する必要がある。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

アンケートについて、専攻専門科目については、ほとんどの受講生が「未回答」であったため、参考とすることができなかった。講座として今後、アンケート回答への手続きや指導について協議したい。その中で、ポジティブな回答の比率が多かったため、引き続き改善を図りながら実施していきたいと考えている。もう少し、アクティブラーニング的な要素を講義の中で増やすことも考えていきたい。

ボタンホールが付けられるミシンが少ないとの意見がありましたので、コンピュータミシンの台数を増やしていきたいと思います。

講義だけでなく、フィールドワークやプレゼンテーションを取り入れている。

出来るだけ学生の理解度に応じた授業展開を心掛けている。特に、専門的な語句については、その都度説明を与えている。興味を引くような具体例も準備するようにしている。アンケートの結果を受けての取り組むべき課題としては、演習問題を充実させることや、学生同士で学びあう機会を設けることである。これらについては積極的に取り入れていきたいと考えている。

「専攻科目」正規の受講者はおらず、特別聴講学生(留学生)の一人のみだった。そのため、彼女の母語や日本語運用能力に合わせた授業をした。今年度今期に限ったやり方なので、あまり参考にはならない。「初年次演習」は毎年担当しているが、授業内容の一部に変更すべき・追加すべきなどの見直しは常に行っている。今年度は、例年に比べて課題提出が多かった。そのため、何度か提出ができなかった学生が、5、6名いた。ちょっと負担が大きかったと反省をしている。今後は、提出課題の負担軽減と、さらにインタラクティブな授業ができるようにしたい。

まなびネットを活用し、授業における学びを授業外学習時間にうまく接続できるように努めています。アンケートの回答は概ね好意的なものが多かったので、授業運営の基本的な部分での変更の必要はないのかと思っております。しかし、個別の学習時間の申告をみると履修者によって差があるようなので、履修者の理解度・習熟度を見極めてフォローができるように努める所存です。

音楽という教科は、学生の今までの体験の差が出やすいため、ごく一般的な内容から少し専門的な内容まで触れるようにしています。また今年度はピアノ練習室の使用ができたので、実際にピアノを弾くことも取り入れました。アンケート結果を見ると、授業内容が音楽経験のない初心者には少し難しいとの声もありました。これは今後の課題かと思えます。ピアノを弾くことはよかったという意見もあり、よかったです。

知識を教示するだけでなく、仮想事例をあげて具体的にディスカッションする時間をほぼ毎回設け、教師の立場だったらどうするかということをも自分ごととして考えられるようにした。ディスカッション内容についての共有が不十分であると感じている学生もいたため、よりよい方法、様々な意見があることがわかるような共有方法に改善させたい。

ポルトガル語は、ブラジル人にとっても難しい文法があるので、日本人にとって勉強が楽しくなって文法が面白いパズルのように見られるよう独自で「パズルカード」というメソッドを考えました。今後、ポルトガル語により興味を持たせる工夫を見つけないかと思えます。また、ポルトガル語を他の分野と関連して理解する方法も見つける必要があると思えます。愛知教育大学では、母語であるポルトガル語を教えることが楽しいと分かりました。ですので、自分の能力も上達しながら、将来履修者が先生になったときに役立つポルトガル語を教えていきたいので、今後も新たな授業教材などを考えたい・作りたいと思えます。



## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

科目の目標によって工夫している点を替えています。

まず、学部4年生の指導法の授業では、これまでの学びを総括し、次年度直面するかもしれない実際の学校現場を想定して、例えば「この場面では教職科目で学んだ●●という知識を活用すれば、適切な教育を行うことができるのではないか」というような学びが得られるような展開を考えていました。

また、学部4年生の他の科目では、学生の興味関心に沿ったテーマ設定と、学生の議論したい方向で検討できる場を設けました。

学生からの質問に対しては、できる限り翌週、または翌々週に回答をするようにしていました。これはおおむね達成できたことと思いますし、これが学生さんたちにとっての参考になればよかったです。

しかし、履修学生の数によっては、毎時の授業の中で「全体でディスカッションをする時間」を多く取ることができませんでした。そのため、ある疑問点に対して、より多くの視点から考える機会を提供することができなかったように思います。その点については、授業を運営する立場として、時間管理の未熟さを申し訳なく思います。

アンケートの自由回答で、大変ありがたく、勇気づけられる意見をいただきました。ありがとうございました。今後も、実際の学校現場での教育活動に生かすことができるよう、議論・検討できるような機会をもつことができればと思います。

ありがとうございました。

### 【独自に工夫している点】

これまで講義の授業では、①テキストの適切な使用、②補助プリントの作成、③新聞記事等を活用した現在の教育問題との関連づけ、④小レポートを活用した双方向的な授業などの工夫を行ってきた。遠隔授業(オンデマンド型)では昨年度作成した授業動画を大幅に作り直すことになった。動画の作成に際しては、見やすいスライド作り、情報の明確な提示、分かりやすい授業展開、教科書や補足資料への効果的な指示(関連づけ)に注意した。また、学生の負担が過重にならないよう、課題提示の回数を抑えることにした。

### 【アンケート結果を受けての改善点】

アンケート結果から見て、授業の教育目標はある程度達成されたと思われる。教育をめぐる状況の変化はめまぐるしいので、毎年、新しい情報を盛りこんでいく工夫を続けたい。今年度は、クラスを2グループに分け、対面授業と遠隔授業を隔週で行ってきた。授業動画(スライドショー)については、おおむねよい評価をえることができたようである。オンデマンド型授業では、受講生相互の意見交換の場を設定することが難しかったが、「まなびネット」の「フォーラム」をある程度活用することができた。課題(小レポート)の頻度は、授業3回につき1回とした。このレポート提示のタイミングや提出期間までの時間的な余裕については、おおむねよい評価をえることができた。課題に対するフィードバックにも心がけてきたが、受講生によっては不十分に感じている回答もあった。この点が、今後の最大の課題だと考えている。

知識や技能が身につくよう授業内容に合わせた授業形態等を取り入れ、今後も改善を続けていく

毎回の講義・実習において、復習と課題に対して自分の考えをまとめることを目的に、レポートを作成させた。これは、講義・実習を振り返ることで新たな疑問や興味のもと、講義・実習内容を発展させることを期待してのものである。しかし、学生の「新たな学び」につなげることはできなかった。多くの学生がアンケートに回答していないことから、今後、さらに学生が興味をもち、「自らの学び」につながるような内容・進め方を検討する必要があると考える。

スポーツ種目ごとに経験および技術習熟度に多少の差はあれ、履修者の基盤としては初心者が多くを占めている。授業展開としては、ゲームの運営を主体的に行うことができ、戦略的にテニスを楽しめる素養を持てるよう、習熟が進むような形態とし、基本ルールの理解と、基礎技術レベルの向上に重点を置いた。ルールの理解や基礎技術の習得は、生涯にわたってスポーツを楽しむ上での重要な素養となる。アンケート結果についても一定の評価が得られたと考えられ、本講義におけるねらいに対し、ある程度効果的な内容を展開できたと考えられる。

授業では、理論だけでなく日常的な事象と絡めながら理解を深められるような資料作りを心がけた。また、アクティブラーニングとしてグループディスカッションを取り入れようとしていたが、合理的配慮を要する学生がいたため、授業中にGoogleフォームを活用した意見交換の場を設け、学生の多様な考察を共有し合えるよう工夫した。授業後に毎回、まとめ問題と考察課題を課すことで、各学生の授業の理解度や考察の深まりを確認するよう努めた。課題には、まなびねつとを活用して毎回個別フィードバックするとともに、次回の授業冒頭で全体へのフィードバックとして、学生のさまざまな考察を紹介した。アンケート結果によると、授業後のフィードバックが授業への関心や理解を深めていたことが伺えたので、今後も継続したい。今後は、授業内で学生同士が意見を交換し合えるような場の工夫など、アクティブラーニングについても積極的に導入していきたい。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

まず、授業アンケートへの回答を周知できなかったために、回答してくれた学生が少なかったことが反省点である。

授業では、学生たちがより主体的に学びに取り組めるように、また実際の学校現場のイメージやリアリティをもってもらえるように、具体的な事例を多く取り上げ、グループワークやディスカッションを多く取り入れるようにした。今回のアンケート結果から、学生が予習・復習が十分にできるように、授業内でさらに丁寧に指示を行うことが必要であったと感じている。そして、今後は、学生が授業内容について関連文献や資料を調べたり、他の分野や事象と関連付けたりしたくなるような、示唆に富んだものにするように心がけていきたい。

アンケート結果の改善点は、アンケートの回答率の低さをまずどうにかするというところが大きいと感じた。その上で、回答しなかったマジョリティの思いから改善を進める努力をしていきたい。

学生や院生の主体性を尊重しながら、研究指導を行い、実習の授業は体験を言語化できるようコーチングしています。

ドイツ語だけでなくドイツ語を用いている地域への関心を持っていただきたいという点から授業ではドイツや周辺諸国の社会や文化について、教科書の内容に沿う形で紹介した。

授業終了後にコメントシートを回収して、次回授業の冒頭に質問や意見への回答を行っている。学生からもおおむね好評であるので、継続していきたい。講義形式の授業は基本的にプリントを配布して話す形式にしているが、スライドなどの適切な利用についても検討していきたい。

教育現象を適切に理解し、またその理解を他者に伝達する能力を身につけることをねらいとしているため、多くの回でデータにもとづいた説明を実施している。一方で、グループワークの少なさが学生から指摘されているため、この点は今後改善したい。

工夫している点：授業で使用する図表等は、なるべく最新のデータに基づくものを使用するようにしている。  
改善点：学生自身に考えさせる時間を確保するようにしたい。

実験結果の読み取りや考察など論理的に考える力の育成を意識して授業を行っていたが、必ずしも実感してもらっていないため、今後も説明を増やすなど工夫をしたいと思いました。

実技的内容と音楽的な知識を効率的にできるだけ楽しく組み込もうと努力しているが、半期の全授業の見通しを立てなくてはいけないと感じたので、今後は大まかな流れを考えつつ、毎回の授業に楽しさを取り入れながら、しっかりと知識を伝えられるようにしようと思う。

今年度、初めて初年次演習を担当した。毎回、受講生の要望を聞きながら、授業の内容や方法を工夫し、高等学校の授業観察や授業後の協議会、高校の模擬授業発表、文献調査やフィールドワークなども取り入れた。相当力を入れて取り組んだが、受講者全員が授業における達成感を得られておらず、まだまだ、学生のニーズをつかみ切れていなかったり、十分なフィードバックがおこなわれていなかったのかもしれないと感じた。

- ・外部の専門家を招き実践的な話を聞いたり、フレームワークを使って課題を明らかにさせるなど、学生が主体的に取り組むための支援を意識した授業を心掛けている。
- ・毎回授業後、振り返りシートに授業の要点や課題に思う自身の考えを書かせることで、授業の理解、課題意識の向上に努めている。
- ・学生の意見では、学生同士の対話、意見交換の時間が欲しいという意見があった。グループワークやワークショップといった対話型の授業展開について心掛けた。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

### 教職科目(1)

【工夫点】授業開始時に、出席確認を兼ねて、前回の授業内容に関する小テストを行っている。前回の授業内容に該当する教科書(学習指導要領解説)の記述に基づいて出題することが多いため、授業内容と教科書の対応付けや定期試験対策にもなっていると思われる。

【改善点】いずれの質問に対しても「どちらともいえない」の人数が多いが、「問8:授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った」の人数を増やしたいと思っているので、もう少し教科指導に関して自ら調査できるような本・Webサイトなどを提示し、小テストの問題にしてもよいかもしいかなと思った。

### 教職科目(2)

【工夫点】授業開始時に、出席確認を兼ねて、前回の授業内容に関する小テストを行っている。問3に関する回答は概ね良好であるため、今後も続けていきたい。

【改善点】小テストに備えた自主学習などについては、授業でのアナウンスもあり、概ね良好だったのかもしれないが(問3)、「問8:授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った」に対しては、「どちらともいえない」や自ら取り組みなかったという回答が若干あったため、後期は、もう少し関連資料・参考文献を調査できるような課題提示の工夫(小テスト・定期テストへの誘導)をしてみたい。

### 教科内容科目

【工夫点】授業開始時に、出席確認を兼ねて、前回の授業内容に関する小テストを行っている。前回の授業内容に該当する教科書(学習指導要領解説)の記述に基づいて出題することもあるため、授業内容と教科書の対応付けや定期試験対策にもなっていると思われる。

【改善点】他の質問項目に比して「問8:授業の内容への関心を高め、関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った」に関する否定的回答が多かった。来年度は、事後的に関連する資料・参考文献・Webサイトへ誘導できるリンクを「まなびネット」を通じて提示する工夫をしてみたい。

・毎回の授業では、すべての学生に振り返りカードを配布して、授業内で学んだこと・意見・感想を書いてもらっています。次の授業までに、カードを読んで、朱筆を入れて返却して、フィードバックを行っています。手間がかかりますが、学生の学びの実態を確認することができる他、学生とのコミュニケーション・ツールとしても役立っています。

・課題については、学びに対して消極的な者への学生への指導です。誰でも単位が取れるような形にしまうと、知識と・技能が担保されない学生でも、免許が取得できるようになってしまいます。様々な進路の学生たちが個々が主体性を持って、授業の課題に取り組んでいけるような授業形態を検討していきたいと思えます。

・使用教室と受講人数の関係で、対面と遠隔の併用方式で実施した。遠隔授業では該当授業の内容について考察できるようなテーマでレポートを課したが、どの学生も素直な意見を出せることができていると思う。自身の考えだけでなく、他の研究や論文の引用を求めるような課題提示があれば、さらに視野を広げた考察ができるようになると思うが、学生の負担を大きくしすぎてはいけないとの思いもあり、レポート課題の設定は難しいものであると思う。

・いくつかの授業記録を紹介し、授業実践における具体から理論を紹介する、反対に理論が実践の場でのように表れるのか分析する、といった方法で、理論と実践の両面から理解や取り組みが促進できるように心がけた。

コロナの規制が緩和されたので、グループ学習を増やした。「目標を超えて学んでいると感じられる機会があった」「事項や事象を自ら調べるなどの行動を取った」の項目に対して否定的な回答が多かったので、どのように授業を改善していけばいいか考えたい。

I would like to include students more in the self-assessment and study planning part of the course. As future teachers this is an important skill to develop.

指示及び学習すべき内容について、ハンドアウト、まなびネット、授業での説明と複数の方法で伝えている。アンケートの回答数が40%程度なので判断が難しいが、概ね達成できていると考える。

グループワークやグループディスカッションは満足ではないので、今度改善したいと思います。

アンケート回答者は少数であったが、概ね肯定的な評価であった。今後も少人数による事例検討、集団討議、ロールプレイなどを取り入れた授業を展開し、将来の実践力につながる知識及び技能の基本的水準の修得を確かなものとしたい。



## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

・オンデマンドと対面授業とで、講義テーマやメニュー等を区分していること。  
・対面授業では、映像資料の視聴や小グループでのディスカッション、プレゼンテーションなど、対面授業でなければ実施できないメニューを取り入れていること。  
・コメントカードや中間レポート課題など、学生から提出されたものに対しては、必ずリフレクションをする機会を設けていること。

教科書に書いてある以外の化学的な知識についても紹介した。(太陽光線と蛍光灯やLEDの光との違いについて、など)  
今後も、化学と日常の暮らしの中で経験する自然現象との間にどのような関わりがあるかについて、受講生にとってわかりやすい説明を行っていきたいと考えている。

学生が主体的に学べるように学生の気づきから理論を深めていくように授業を展開するようにしている。また、教育現場で起こり得ることは学生で解決できるようにしている。アンケート結果は概ね良好だったため、改善点は特にないと考える。

学生たちが自ら探究する機会を与えているつもりだったが、そのように受け取ってもらえていない学生も一定数見られた。これについては、時数的な限界を正直感じている。他の先生方の取り組みが知りたい。

専門科目においては、授業の中で学生自身が考え、自分の意見を持つことを大切にしている。授業目標については、学生自身が目標達成ができているかどうか意識できていないと感じる。常日頃の授業の中で、学生に授業目標を意識させる働きかけが必要であると感じた。

教育実習や学校現場で実務に役立つように、教科書を読み解き、実技を学修してから学習指導案を立案し、実際に模擬授業を行うようにしている。模擬授業の後、グループ内で授業分析を行い、さらに全体で共有化している。現在は、学生の模擬授業はロイロノートの活用を必須としている。来年度は、学部生の教職科目でも模擬授業にロイロノート等を取り入れていきたい。

本授業では、社会調査方法の講義と調査の実施と並行して行ってきたが、実際に行った調査結果の分析のための時間が足りなかったことが反省する点であり、時間配分を考慮することが今後の改善点になると考える。

実技を伴う科目では、書画カメラを用いて用筆(筆使い)を拡大投影して動きや筆圧の変化への理解が深まるようにしている。個別に、実技への疑問に対して答え、より適切な運筆法への理解を深めるようにしている。

実際に現場で活かすことができるよう、指導者としても子どもの立場からも考えられるような体験学習をメインに行った。今後はもう少し学生自身が授業外でも自ら意欲的に探究できるような課題設定を検討したい。

当たり前のことではあるが、高等学校までに学んでいる事柄を前提として講義を進めている。それら基本的な知識・技能が身につけていない学生には難しく感じるかもしれない。しかし、大学での講義は高校までの補習ではないので、不足する事柄を補完する際の参考になるよう、授業内容に関わる補足資料を、まなびネットを通して随時公開している。予想通りではあるが、それが必要とされる学生に限って全くアクセスしていない。一方で、日頃から自学自修する習慣のある学生は理解が深い。そうでない学生は、分からないことを講義担当者の責任にするのではなく、自身の知識・技能不足である事を自覚し、自学自修することの必要性・重要性に気付くよう努力してもらいたい。なお、試験では、合否を判定するための基礎問題に加え、最終評価の違いが出るよう標準的なものから少々難しい問題をバランス良く出題するよう心掛けている。期末試験についてのコメントをしておこう。すべての受講生が簡単に解答できるものばかりを出題しているわけではない。意欲ある受講生にはより意欲的になってほしいため、彼らに対する問題も含んでいる。

生徒たちの意見をより吸い上げ、それが彼らの成長につながるような授業展開を工夫していきたい。

できる限り実習や保育者になってからをイメージできるように具体例を挟みながら行っている。反対に、そのイメージがもちにくい福祉系の理論的講義は満足度が低い傾向にあるので、もう少し具体的事例を含めていきたい。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

興味を持って取り組んでいただけるようにしている。ご指摘いただいた点は、改善を心掛けたい。

制作やレポートなどの授業以外の課題についてただ提出が目的ではなく、それを用いて発表や交流をすることで、より内容の理解につなげることを工夫している。それが学生にとって学修の有用性や当科目の意義の実感に効果があったと感じている。一方で、「関連する資料や参考文献、事項や事象を自ら調べる」ことに対して若干、肯定的でない回答が見られたことから、さらに学生が読んだり調べたりできるように資料の紹介等をしていきたい。

専攻科目(1)では、小学校から扱う整数の性質をより厳密に学び直すとともに、数学的な論理的思考を培う機会であるとして講義を構成している。また整数に関する様々なトピックを盛り込むことで、整数論に興味を持ってもらえるよう配慮してある。また各回に演習問題を用意することで、少しでも講義内容を理解してもらうための一助としている。アンケートの自由記述欄において、板書をするのが精一杯で授業内容が同時に理解できないというコメントがあった。特に説明が足早になっているわけではないが、板書を取る時間にさらなる配慮が必要なのかもしれない。後期においては専攻科目(1)よりさらに高度な専攻科目(2)を担当するため、今回の学生からの声を参考に努めていきたい。また課題提出も必要に応じてコメントをつけて返却することにし、できるだけ細かいところに手が届くよう指導していきたい。

ここでは特に、担当者が単独で授業を行った教育支援専門職養成課程課程内共通科目について述べる。提出率は77%で4分の3を超え、比較的高いと考えられる。各項目の評価も概ね肯定的であった。本授業は教育現場における種々の課題に関して、初めに授業者が基本的な知識や状況を伝達した上で、学生同士を小グループとして各自の関心からテーマを設定し、それに関して情報や資料を収集して発表を行う構成としている。そのため、グループディスカッションが多いことが特徴であり、学生からの肯定的な評価の記述からもこの特徴が良い評価につながったことがうかがえた。また、全体的に学生の意欲も高かったことから、質疑応答ではできるだけ多くの質問に授業者が回答したことで、問4の肯定的回答が著しく高くなったものと思われる。自由記述においては、肯定的な内容として、学生同士が小グループでの協力から学校教育における様々な課題について、各自の関心あるテーマ選択から資料収集などを自主的・協力的に行う機会が貴重であったことなどが記されていた。個人の考え・働きにとどまらず、学生同士が良い刺激を与えあう相互作用を感じられる授業形態であったと考えられる。否定的な内容は特に見当たらなかったが、グループごとの活動がメインとなる回ではオンデマンド授業の方が活動しやすいのではという意見もみられた。これについては、対面だからこそ生まれる相互作用や、グループごとの取り組み濃度の格差が生じうることを考えると、やはり対面で全体の中で取り組みを行うことでの、グループ間の相互作用を期待して対面授業として実施することを考えている。

### 〈独自に工夫している点〉

小学校の教科書における古典教材では、「学校現場では、どのような活動や、取り組みをしているのか」、指導案、書籍、インターネットを使って調べさせている。授業時に、グループ内で調べた内容を発表させた後、全体の場で発表させたり、プリントにして配布したりしている。その活動後の大学の授業では、古典の授業について構想させている。古典の作品は、イメージを膨らませやすいようで、様々な案が学生たちから出てくるため、この方法は有効だと考えている。

### 〈アンケート結果を受けての改善点〉

【教職科目】専攻が理系ということもあり、国語に苦手意識をもつ学生が多い。「教材分析・教材研究」を15回の授業の前半でしっかり行い、後半の模擬授業につなげていきたい。

【教科内容科目】積極的に取り組む学生が多く、グループ活動における発言も活発であった。意識の高さが結果に出ていると感じている。今年度のように、学生が意欲的に取り組める授業内容を考えたい。

共通科目では時事問題も紹介しつつ実生活のなかの憲法問題を身近に感じられるような授業の工夫が評価されていたと思います。専攻科目では裁判員裁判の傍聴の選択肢を設けてリアルな法問題にアクセスする課外活動が評価されていました。一方で、グループワーク等の取り組みについては、一切採り入れることができておらず、この点については今後、授業方法を工夫する余地がまだまだあると思われるので課題としたい。

slido等のツールを使って、双方向の授業ができるように心掛けた点。

## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

### ①共通科目

#### (1)工夫点

・受講学年が1年生であることを踏まえ、授業内容と日々の生活とを絡めて考えたり、保育の映像を見たりして、伝わりやすい授業内容にすることを心掛けた。  
・話し合い以外にも、保育で行われる遊びの実践も取り入れ、保育現場をイメージしながら授業内容を理解できるようにした。

#### (2)改善点

・学生に伝わりやすい内容にするとともに、保育・幼児教育について、より興味を持てるような授業内容、学生同士の意見交換のテーマなどを考えていきたい。

### ②専攻科目

#### (1)工夫点

・模擬保育を行う際、保育者役、子ども役、観察役と役割分担をすることで、保育について多様な視点から考えることができるようにした。  
・模擬保育を振り返る際、指導案をスクリーンに映しながら良かったところや改善点などを共有することで、クラス全体の学びにつながるようにした。

#### (2)改善点

・模擬保育以外の授業内容においても、説明を工夫したり学生同士で考える時間を増やしたりすることで、実践時の気付きや学びにつながるようにしていきたい。

学生が一方向的に話を聞く講義形式ではなく、グループワークを取り入れたたり問いかけたりしながら、講義内容を身近に感じられるように工夫している。アンケートの回答数が少ないことについて、もっと積極的に回答できるように一層自分事と捉えられるような内容や授業形式を工夫し、回答数を増やしていきたい。

既報の事項を継続している。アンケートは残念ながら回答者が若干名で参考とはならなかった。

まなびネットを活用し、講義内容についての予習復習の効率化に努めており、アンケートでも概ね肯定的な意見が得られている。今後もこの取り組みを継続し、講義内容の理解を深めるための効率化に努めたい。

今学期は、担当内容が非常に大変なものが重なり、自分なりの準備ができず、また、課題返却に非常に時間がかかりすぎました。そのため、工夫等は考えられる余地がなかったです。

担当したいずれの授業枠においても、アンケート結果はおおむねポジティブなものが多く、授業の企図はある程度適切に学生に伝わっているように見受けられる。近年では教材やメディア等の伝え方も、図解や動画を通して、視覚に訴えるコンテンツが多く、学生側もそうした伝え方に慣れているように感じる。授業・実習においても、言葉だけで伝えている箇所を図解にしたり、映像を取り入れる等、毎年内容の改変を試みており、より理解しやすい授業・実習を目指して、見直しと改善を今後も続ける。

特別に独自だと思われる工夫は行っていないように思う。アンケート結果を受けて考えてみるに、もっとこの授業で身につく力について強調して説明したほうがよいと思う。

授業では一方的な講義ではなく、適宜、具体的な体験活動、視聴覚教材による授業分析、グループによるディスカッションや単元構想の作成等を取り入れたたりした。今後、さらに、受講生の授業内容に対する知的好奇心を高め、自ら調べる活動を促す工夫、論理的思考力や課題探求力を育てるような工夫を心掛けるつもりである。

すべての授業にかかわる資料等をe-Learningシステムで公開しています。また出欠や、各課題の個別の採点を受講生は見ることができ、履修の状況を確認できます。

質問には速やかに答えるように心がけている。アンケート結果を受けての改善点は特になし(自由記述に否定的な内容がなかったから)。



## 授業方法について、独自に工夫している点と、アンケート結果を受けての改善点

今回の結果では「未回答」の割合が4分の1を占めていたため、残り4分の3の回答から判断したことに基づいて記述する。

問1～8の8項目のうち7項目においては、全体として肯定的な回答を得ることができた。残り1項目については反応が分かれていたが、これは、履修者の自主的な調査の有無を問う「問8」である。多人数の必修科目という条件下でこの点を改善するには、やや義務的ではあるが、調査が必要なプレゼン等の課題を課すという案が考えられる。現在、教室収容定員の関係でクラスを二分して対面授業と遠隔授業を交互に行っているため、発表時間を確保しづらい状況ではあるが、次年度以降、全回対面授業を実施できれば導入を検討したい。

自由記述の設問では貴重な意見が複数寄せられ、書いてくれた履修者たちに感謝したい。いずれも対応を考えているが、ここでは、特に長文で書かれていた以下の2つの意見に対する回答を述べる。

1つ目は、ディスカッション等を取り入れて授業をもっと活性化してほしいという意見で、これはまったく同意であるため、感染対策の緩和に合わせてぜひ次年度から実行したい。

2つ目は、共通科目をTOEIC対策専用に変化してほしいという意見である。この背景には、これら2科目の成績評価におけるTOEICスコアの比重の重さがあり、書いた本人も、担当教員ではなく大学側への要望だと断っている。その点を踏まえた上で担当教員側からも意見を述べるなら、現在の比重に合わせて授業内容をTOEIC対策に限定してしまうより、その比重自体を緩和して、もっと深く豊かな内容の授業を受けられるようにする方が、履修者にとって望ましいのではないだろうか。なぜなら、TOEICという試験は本質的に、ビジネス英語という狭い領域の運用力向上を図ったものだからである。大学の一般教養課程の外国語科目には本来、その後の専門課程や卒論研究で学生が学問に取り組むための言語面での土台作りという大切な役割がある。また、本学の学生の大半は、企業人ではなく学校教員や教育支援専門職を目指している。したがって本学の外国語教育は、より広くアカデミックな視点から行うのが適切であろうと考える。

実際に小学校で使用されている教科書をもとに、児童の立場で単元内容を体験し、教員の立場で指導の注意点と環境整備を考察する時間を設けました。児童と教員の双方の視点から学べるような授業展開になるよう工夫しました。

1年生に向けた演習科目では、要約・レポートなど、定期的に短い課題を提出させることで授業で学んだ内容を実践する機会を多く設けた。また前期授業で、90分授業に慣れていないことを鑑み、45分を目安に休憩を設け、教員の勧める本などについての余談を行った。アンケート自由記述欄ではレポートを書く力を付けることができたという感想が複数みられたが、課題の見本を示してもらえると良かったという声もあったので、過去に提出された課題を匿名で教室に持参し、閲覧できるようにするなど工夫したい。その他の演習科目では、文学作品の先行研究の要約や語句の注釈、異同の確認といった多様な観点からのグループ発表を実施し、作品を多角的に捉えられるよう意識している。

アンケート自由記述欄では、シラバスの作品順と実際の授業で扱う順が異なることへの指摘があったが、実際の発表順は授業が始まった後に、発表者の希望に沿って決定しているためである。発表順が決まった後にシラバスを修正する／発表順を定期的に授業内で周知するなど、改善したい。また、発表資料を紙で印刷するよりも、Teamsでデータを共有する形の方がよいという声もあったが、紙媒体・データそれぞれのメリット・デメリットを検討しながら、決定していきたい。

コロナ禍以前から単元ごとに実施する授業内課題を通して振り返りの考察機会を持たせながら理解の深化を促すようにしていたが、コロナ禍以降は遠隔授業の出席確認課題を兼ねることにもなり、やや教育的な効果が損なわれる点も感じた。今年度は教室定員の都合上、対面授業と遠隔授業を並行させる必要があり、授業運営自体も非常にやりにくいところがあったが、課題を通じた理解考察の機会があったことは一定の効果があったように感じている。次年度以降、対面授業が恒常化されることになれば、さらに効果的な運用ができるように検討していきたい。

「予習・復習などの自主学習や、小テスト・レポート等の課題について、授業やシラバスで指示があった」という問いについて、肯定的な回答が多く寄せられた。課題提示を行う際、別途、課題内容や提出方法などを説明した資料を配付したことがよかったと考えられる。また、「教員から意見が求められたり、グループ・ディスカッションを行ったりするなど、質疑応答の機会があった」という問いについても、肯定的な回答が多く寄せられた。授業の冒頭で前回の授業の感想や質問に対する応答を行ったり、毎回の授業で必ず活動を行う時間を設定したりしたことがよかったと思われる。

その一方で、「シラバスに掲げる授業目標から考えると、自分は「目標を概ね達成したレベル」を越え、より優れて学べていると感じる機会があった」という問いについては、他の問いと比べ、肯定的な回答がやや少なかった。その背景として、授業目標が指し示していることが具体的にイメージしづらかったり、教員が授業目標と関連付けてコメントする機会が少なかったりしたことが考えられる。